

住民総参加の福祉のまちづくりへ向けて
地域グループの役割

サロンが
できること

はじめに

サロンばやりとなりました。国の支援もあって、全国で急速に広がっています。せっかく集まるのだから、いろいろなことができるはず。ふれあいの機会がない要援護者も仲間に加えることが、特に求められています。

また、サロンでメンバーの愚痴が出てくるでしょう。それに対応することがそのまま福祉活動になります。

<目次>

1. 「気になる仲間」とは？／3
2. 気になる仲間への関わり方／5
3. サロンが仲間に見えること／7
4. わがサロンの取り組み方針／11
5. サロンで「気になる仲間」の気になること探しーダイアグラムで／12
6. 気になる仲間の問題に対応するために一人材探し等
世話焼きチームがニーズ対応検討会／13
7. 気になる仲間の問題に対応するためにー超高齢社会に対応するために
町内圏域からご近所圏域に重点を／14
8. 「ご近所サロン」開催へ向けて／15
9. 「ご近所サロン」でのニーズ対応 2つの選択肢／16
10. 超高齢社会に求められるサロンの役割／17

1. 「気になる仲間」とは？

福祉的な観点から見ると、以下のような人は「気になる仲間」として、メンバーが気にかけて、何らかの関わりを考えることが求められます。

- ①要介護になっても来ている人。または要介護になって来なくなった人

- ②デイサービス利用で来なくなった人

- ③特定のメンバーと相性が合わずに来なくなった人

- ④要介護の配偶者を家に置いて来る人

⑤施設に入所したので来なくなった人

⑥最近来なくなった人

⑦会場が家から遠くて来られない人

⑧メンバーといさかいを起こす人

⑨家庭で問題を抱えている人

⑩サロン運営に迷惑をかける人

2. 「気になる仲間」への関わり方

ではそれぞれの「気になる仲間」に対して、どういう関わりをすればいいのでしょうか。各自の福祉の考え方によって答えが異なる場合もありますので、よく議論してみましょう。

①要介護になっても来ている人。または要介護になって来なくなった人

②デイサービス利用で来なくなった人

③特定のメンバーと相性が合わずに来なくなった人

④要介護の配偶者を家に置いて来る人

⑤施設に入所したので来なくなった人

⑥最近来なくなった人

⑦会場まで家から遠くて来られない人

⑧メンバーといさかいを起こす人

⑨家庭で問題を抱えている人

⑩サロン運営に迷惑をかける人

3.サロンが仲間にできること

そもそもサロンという場で、参加者に対してどのようなことができるのでしょうか。一般的に言えることを並べてみました。

各項目について、今のサロンでどのように取り組めるかや、既に行われていることなど、思いついたことを出し合いましょう。

①個々の健康状態を確認

②悩み事を把握して、解決へ

③生活習慣の偏りを矯正

④新しい趣味を提示

--

⑤サロンに来ない日の、各自の安全の守り方を確認し合う

--

⑥友だち作り

--

⑦福祉学習の場に

--

⑧福祉（サービス）情報の提供

--

⑨ライフプラン作りの支援

--

⑩より充実した生活を送るための支援

--

⑪夫婦での参加を推進（夫婦共通の仲間をつくっておけば、どちらかが要介護になった時に、仲間の支援を受けやすい）

--

⑫配偶者の介護をしている仲間を支援

--

⑬要介護の配偶者もサロンに参加できるようにする

--

⑭サロンに来ない日の二次会づくりを応援（ご近所の仲間同士で小さなサロンづくり）

--

4.わがサロンの取り組み方針

前項で話し合ったことをもとに、このサロンでこれから取り組みたいことを決めて、具体策を記入しましょう。既に行われていることがあれば、それも記入します。また、メンバーが個人的にやっていることがあれば、それもリストに入れて、サロン全体として取り組んでいくといいでしょう。

取り組み方針	具体策

取り組み方針	具体策

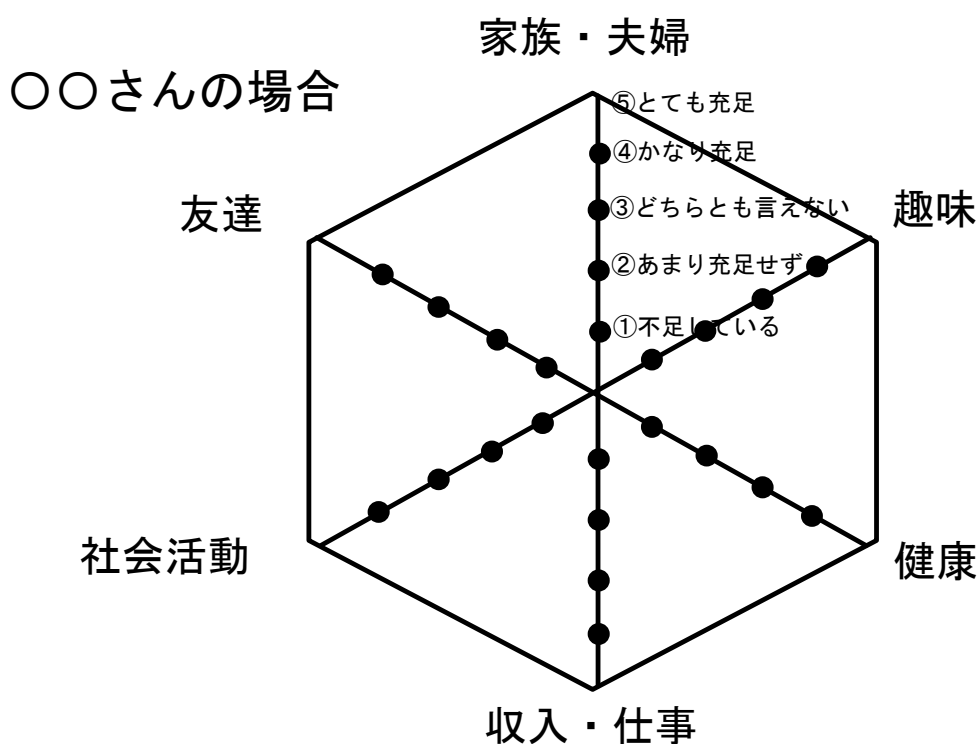
取り組み方針	具体策

取り組み方針	具体策

5.気になる仲間の気になること探し

前述の「気になる仲間」の支援策を考えるために、「豊かさダイアグラム」で測ってみるという方法もあります。

下の六角形の6つの項目は、人が豊かに生きるために必要な6つの要素です。各項目について、その人の充足状況を1～5で評価して印をつけ、それを線で結びます。これによって、その人が豊かに生きるために欠けている要素が見えてきますので、それが充足できるよう、支援していけばいいのです。



6.気になる仲間の問題に対応するために 世話焼きさんたちでニーズ対応検討会

サロンメンバーの中には、困っている人がいると放っておけずに関わってしまう、いわゆる世話焼きさんと言われる人もいるでしょう。

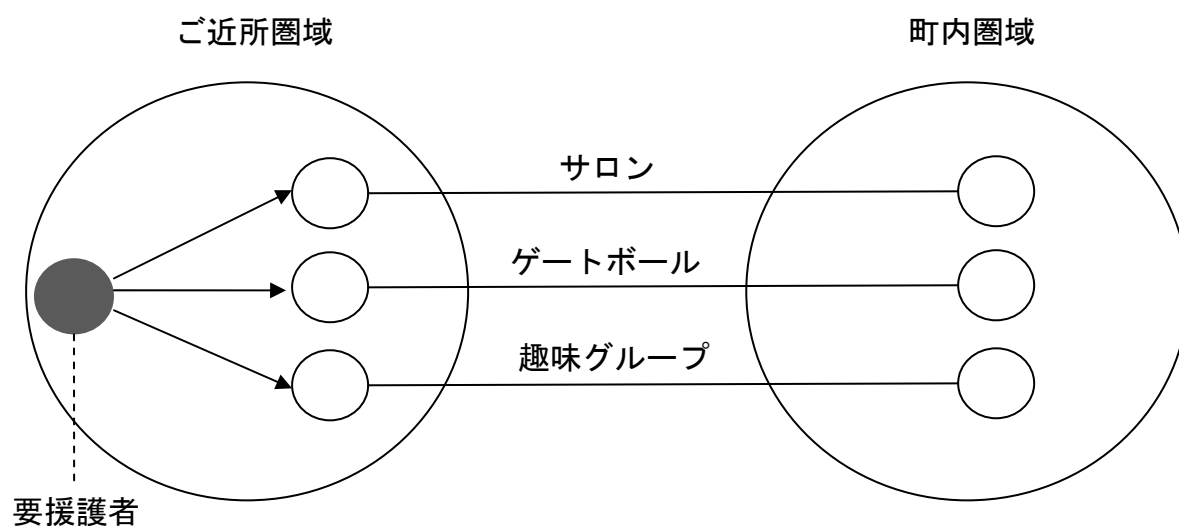
その世話焼きさんたちが集まり、それぞれのニーズへの対応を考える検討会を開き、以下の点について話し合うという方法もあります。

気になること・人	
問題の内容	
対策	
取り組み方針	

7.超高齢社会に対応するために 町内圏域からご近所圏域に重点を

超高齢社会になれば、人々の交流範囲は極端に小さくなります。町内圏域でサロンを開いても、要援護の人は行けないのです。

そこでサロンも含め、いろいろな活動を、これからはご近所単位で開いていく必要があります。大がかりな活動である必要はなく、メンバーが自分の足元で「二次会」的に行えばいいのです。



8. 「ご近所サロン」開催へ向けて

まず、メンバー各自がどのご近所に在住かを調べ、その上で、これからの二次会的なサロンをどこで開けるかを考えます。ご近所では、誰かの自宅で開催するケースが多くなります。

そして、その近くの要援護者の中で参加できそうな人を挙げていきます。過去にサロンに参加していたけれど、高齢になってやめたという人が最優先になります。

	在住のメンバー	ご近所サロンの候補
第〇ご近所	〇〇さん △△さん ××さん	例・〇〇さん宅ですすでに二次会が開かれている ・〇〇さんがリーダーで、自宅開放できる ・自宅開放できる人はいないが足元に公会堂がある
第1ご近所		
第2ご近所		
第3ご近所		

	誘いたい人	要介護状態・病気など
第1ご近所		
第2ご近所		
第3ご近所		

9.ご近所サロンでのニーズ対応

<2つの選択肢>

ご近所サロンで出てきた福祉ニーズにどう対応するか。選択肢は2つあります。

1つは、それらのニーズを町内圏域のサロンに上げて、そこで解決策を考えるというもの。

もう1つは、ご近所福祉推進チームができていれば、彼らの手で解決してもらおうよう要請するという方法です。

- ①町内のサロンでの問題解決
- ②ご近所福祉推進チームとの協働

10.超高齢社会に求められるサロンの役割

あらためて、これからやって来る超高齢社会では、サロンはどんな役割を果たしたらいいのか。

①超高齢者も仲間に

②または押しかけ型サロン

③介助者の確保

④要介護者も仲間に

⑤ご近所ごとのサロン開催を

⑥介護予防型サロンへシフト

⑦夫婦参加を推進

住民流福祉総合研究所

木原孝久

〒350-0451

埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 1 4 7 6 - 1

TEL049-294-8284

kiharas@msh.biglobe.ne.jp

<http://juminryu.web.fc2.com/>
